

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	(和文) 本事業は、保健医療サービスを提供する側の施設の基盤整備、公的保健医療スタッフや保健ボランティアを含む人材の育成・能力強化、そして利用者への母子保健啓発等、双方へのアプローチを通じ、母子の基礎保健医療サービスへのアクセスを改善することで、母子の健康格差是正に取り組む。
	(英文) The proposed project aims to improve the access to basic maternal and child health services, which will ultimately correct health inequalities in <i>Gadhawa</i> , through provision of equipment, facility construction, capacity building of health personnel and health awareness among community people.
(2) 事業の必要性と背景	<p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ ネパール連邦民主共和国（以下ネ国）の母子保健指標は、近年改善傾向にあるが、乳幼児死亡率は 32、妊産婦死亡率は 239 と南アジアで最も高い数値を示している。さらに、国内における地域間、民族・カースト間、ジェンダー間、貧困層と富裕層の間の健康格差が特に大きな問題となっている。そこでネ国保健省は、国家政策「National Strategy for Reaching the Unreached to Reduce Health and Nutrition Inequalities and to Achieve Universal Health Coverage in Nepal (2016 – 2030)」を策定し、特に遠隔地や社会的脆弱性の高い人々の公的保健医療サービスへのアクセス改善を通じ、ネ国全体の保健指標の改善を目指している。</p> <p>(イ) 事業地と事業内容の選定理由 <u>事業地選定の理由</u> 本事業対象地が属する第 5 州は、例えば新生児死亡率が全 7 州のうち 2 番目に高く、最も低い第 4 州の 2 倍にも上る¹など、母子保健指標が低い地域の一つである。ダン郡は、第 5 州の中でも社会経済状況ならびに母子保健指標が低い²郡の一つで、同郡内でも母子保健指標が悪く、特に母子の健康格差が大きい地区の一つが本事業対象地のガダワ地区である。同地区は 4 つのヘルスポスト³（ガダワ、ガンガパラスプル、コイラバス、ゴバルディヤ）管轄地に分かれているが、例えば妊婦健診 4 回目の受診率は 3.7 倍（最高 74.1%、最低 20.1%）、妊婦鉄剤受給率は 3.2 倍（最高 81.4%、最低 25.2%）、麻疹風疹予防接種率は 1.5 倍（最高 92.8%、最低 65.3%）の格差がヘルスポスト管轄地間で存在している。</p> <p><u>事業内容選定の理由</u> 前述した母子の健康格差が存在する背景として、地形的な要因（例えば、8 区は雨で道路が遮断され雨期は陸の孤島と化す）に加え、以下の通り、サービス提供者側の課題と、コミュニティ側の課題が確認された。</p> <p>1) 提供者側の課題 ①不十分な施設・設備 ヘルスポスト全 4 か所で配備された医療資機材が保健省基準を満たしておらず、十分な保</p>

¹ Nepal Demographic and Health Survey (NDHS) 2016, Ministry of Health Nepal

² 第 5 州都ルバンデヒ郡の貧困率が 17.3%であるのに対し、ダン郡のそれは 25.1%と高い (Small Area Estimation of Poverty 2011, Central Bureau of Statistics)。保健指標も全体的に低く、例えばルバンデヒ郡の第 4 回妊婦健診受診率が 82%であるのに対し、ダン郡のそれは 56%に留まっている (District Health Report 2072/73, Dang、及び District Health Report 2072/73, Rupandehi)

³ 各区に 1 つずつ設置されている公的一次保健医療施設。一般内科診療、簡単な外科処置、妊産婦健診、通常分娩助産などの公的一次保健医療サービスを 24 時間体制で提供する。医師は配属されていないが、一定の研修を受講した医療スタッフと看護スタッフに加え、事務スタッフが常駐する。無料診察。ヘルスポストでは対応できない高度な処置が必要な患者は、郡庁の高次保健医療施設に搬送される。

	<p>健医療サービスを提供できていない。</p> <p>2) 提供者側の課題 ②限られた研修機会 ヘルスポストスタッフや女性地域保健ボランティア (FCHV : Female Community Health Volunteer) が、保健医療知識・技術の習得や再定着を目的とした研修を受講できる機会は限られている。また、タル一族やダリット⁴など5つの少数民族・低カースト層の住民が住む多様な地域社会であるにも関わらず、患者が置かれている環境の多様さ・複雑さに配慮しながらサービスを提供する技術 (保健教育手法やコミュニケーション手法等) を学ぶ機会は提供されていない。</p> <p>3) 提供者側の課題 ③不十分なアウトリーチサービス 住民にとって最も身近な公的保健医療施設であるヘルスポストは、地区に4つしか配置されておらず、遠隔集落からは徒歩1時間以上かかることも珍しくない。ヘルスポストのスタッフが毎月遠隔集落に出向き、予防接種や妊産婦健診を実施する「アウトリーチクリニック⁵ (ORC : Out Reach Clinic)」を行っているが、施設が無く、不衛生かつプライバシー配慮のない野外で実施せざるをえない状況である。 ガダワ地区行政は、最もニーズの高いゴバルディヤヘルスポスト管轄地に「コミュニティヘルスユニット⁶ (CHU : Community Health Unit)」を4つ新設することを検討しているが、地区配分の政府予算だけでは、ORC/CHUの整備や運営支援・指導が難しい状況である。</p> <p>4) コミュニティ側の課題 ①女性を取り巻く厳しい社会環境 ガダワ地区には、特に社会的脆弱性の高い少数民族やダリット、イスラム教徒が多く住んでおり、男尊女卑の慣習、早婚や若年妊娠、妊娠中に身体の異常を感じても夫や姑に言い出せないなど、特に出産可能年齢 (15歳~49歳) の女性が厳しい環境に置かれている。このような環境に配慮した啓発ツールは乏しいことに加え、保健医療サービスに関する情報や知識が十分行き届いていない。</p> <p>(ウ) これまでの事業の成果、課題・問題点と対応策 第1年次の活動は計画通りに終了し、全4か所のヘルスポストに供与した31種114品の資機材は、ネ国政府規定のサービス提供に有効活用されている。また能力強化研修を受講したヘルスポストスタッフやFCHVは、研修で学んだ知識・技術を各自の業務で活用している。 第2年次の活動は、ネパール政府による新型コロナウイルス感染拡大予防策に従い、前半期に予定していた能力強化研修の実施を後半期に遅らせた一方、後半期に予定していた実施可能な活動を前倒しで実施するなど、柔軟な活動運営に務めている。 4か所で予定していたORC/CHUの建設は順調に進んでいる他、母子保健啓発活動の一環として、手洗いや乳幼児の栄養などをテーマにしたワークショップを計42回開催し、延べ775人の母親が参加した。また、ORC (計26回) の運営支援、ラジオ番組や新聞広告を通じ、幅広い地区住民に対する保健啓発を実施している。 ガダワ地区行政とは、四半期ごとに調整会議を開催し、全ての活動においてその内容と実施方法について協議しながら進めるなど、良好な協力・連携体制を維持している。</p>
--	---

⁴ ヒンドゥー・カーストの最下層に位置づけられた人々。「不可触民」とも呼ばれた。

⁵ 現在、予防接種と妊産婦健診をそれぞれ月2回実施することが義務付けられている。

⁶ 上述、ネ国保健省政策の一環として新たに配置が進められている公的保健医療施設。一般的な風邪薬や痛み止めなどを提供する「簡易診療所」のようなもの。公休日以外の朝から夕方まで医療スタッフが常駐し、妊産婦健診と予防接種に加え、一般内科・外科の診察や処置も行う。医療スタッフは保健省から配属され、給与はガダワ地区議会から支払われる予定。なお郡保健局ならびに管轄ヘルスポストが、施設の維持管理を担う。

	<p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p>本事業は、人々の健康と福祉の促進を目指すターゲット 3.1、3.2、3.8に加え、社会的弱者の基礎的なサービスへの平等な権利を謳う 1.4 や、人種や民族等の不平等是正を謳う 10.2 との関連性が高い。</p>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ジェンダー平等</th> <th>環境援助</th> <th>参加型開発／良い統治</th> <th>貿易開発</th> <th>母子保健</th> <th>防災</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1:重要目標</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>2:主要目標</td> <td>0:目標外</td> </tr> <tr> <th>栄養</th> <th>障害者</th> <th>生物多様性</th> <th>気候変動(緩和)</th> <th>気候変動(適応)</th> <th>砂漠化</th> </tr> <tr> <td>1:重要目標</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> <td>0:目標外</td> </tr> </tbody> </table>	ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／良い統治	貿易開発	母子保健	防災	1:重要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	2:主要目標	0:目標外	栄養	障害者	生物多様性	気候変動(緩和)	気候変動(適応)	砂漠化	1:重要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外
ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／良い統治	貿易開発	母子保健	防災																				
1:重要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	2:主要目標	0:目標外																				
栄養	障害者	生物多様性	気候変動(緩和)	気候変動(適応)	砂漠化																				
1:重要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外																				
	<p>● 外務省の国別開発協力方針との関連性</p> <p>対ネ国開発協力方針（平成 28 年 9 月）の重点分野（中目標）において、保健医療の水準向上を通じて「貧国削減と生活の質の向上」を支援するとしている。脆弱性の高い人々や地域を対象に基礎保健医療サービスへのアクセス改善を目的とする本事業は、同方針と合致している。</p>																								
	<p>●「TICAD6/TICAD7における我が国の取組み」との関連性</p> <p>該当なし。</p>																								
(3) 上位目標	ダン郡ガダワ地区における母子の健康格差が是正される																								
(4) プロジェクト目標（今期事業達成目標）	<p>【プロジェクト目標】ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する</p> <p>【3年次事業達成目標】プロジェクト目標と同じ</p>																								
(5) 活動内容	<p>0. 事業管理に係る活動</p> <p>0-1. 各レベル行政機関との調整</p> <p>ネ国政府社会福祉協議会（SWC: Social Welfare Council、女性子ども高齢者省の NGO 管轄機関）との事業合意書（PA : Project Agreement）で定められている中央レベル諮問委員会及び郡レベル諮問委員会との調整会議を複数回（中央レベル：2回、郡レベル：1回）開催する。また、同合意書で規定されている事業終了時評価や社会監査⁷が実施される予定で、事業終了時には SWC からの外部評価員 4 人が、また社会監査では監査人 1 人が、裨益者への聞き取りや公聴会を通じて、事業の成果やインパクトについて評価する。この他、本事業対象地のガダワ地区行政機関と四半期ごとに調整会議を開催し、各種協議や情報共有を図る。</p> <p>【変更】2017 年の地方選挙以降、郡行政の機能が縮小されていることを受け、各レベルの行政機関と協議した結果、郡レベルの調整会議を年 2 回から年 1 回に変更することとなった。</p> <p>0-2. 専門家・本部職員の派遣</p> <p>本部事業統括と本部事業担当を 1 回ずつ派遣する。前者は事業 6 か月目に派遣し、事業終了時評価を前に、現場をモニタリングし、各活動の進捗状況を確認する。後者は事業開始早々に派遣し、地方自治体との調整会議などへの出席を通じ、2 年次のまとめや提言を 3 年次の事業運営にどう活かすかについて協議・調整する。</p>																								

⁷ SWC により実施が義務付けられている監査。事業対象者の立場から、事業のパフォーマンスや社会的インパクトを測るもの。

	<p>0-3. <u>ベースライン・エンドライン調査</u></p> <p>事業終了直前にエンドライン調査を実施し、各成果の達成度を測る。本事業スタッフに加え、外部調査員 1 人と調査アシスタント 4 人が調査票をもとに、無作為に抽出した 816 世帯⁸を対象に個別インタビューを実施するほか、フォーカスグループディスカッション⁹や半構造化インタビュー¹⁰なども交え、量的・質的両面から実施する¹¹。</p> <p>1. 公的一次保健医療サービスの強化</p> <p><u>1-1. ヘルスポストへの資機材供与</u></p> <p>「ヘルスポスト運営管理委員会¹²」が、(1 年次に供与した) 資機材の使用・管理状況を 2 回 (事業 6 か月目と 12 か月目) モニタリングする。必要に応じ、本事業スタッフがモニタリング状況について助言する。</p> <p><u>1-2. ヘルスポストスタッフの能力強化研修の開催¹³</u></p> <p>以下 3 種類の能力強化研修を開催する。</p> <p>①「コミュニケーション (患者フレンドリーな対応法)」</p> <p>対象者：全ヘルスポストスタッフ (46 人)、2 年次に新設した CHU のスタッフ (6 人)</p> <p>講師：第 5 州政府保健担当官、本事業スタッフ</p> <p>内容：行動変容、非言語コミュニケーション、リスニング手法、緩和ケア、意思疎通</p> <p>会場：各ヘルスポスト</p> <p>期間：2 日間/ヘルスポスト×4 ヘルスポスト</p> <p>②出産介助 (SBA¹⁴) 研修</p> <p>対象者：准看護助産師 (各ヘルスポスト 1 人ずつ、計 4 人)</p> <p>講師：第 5 州政府保健担当官、本事業スタッフなど</p> <p>内容：妊産婦の継続ケア、感染症予防、通常分娩、新生児蘇生、分娩中と分娩後の出血対処、産前産後と分娩に係る記録、コミュニケーションなど</p> <p>会場：第 5 州保健研修センター</p> <p>期間：60 日間/回×1 回</p> <p>③家族計画とカウンセリング研修</p> <p>対象者：家族計画担当スタッフ (各ヘルスポスト 2 人ずつ、計 8 人)</p> <p>講師：第 5 州政府保健担当官、本事業スタッフなど</p> <p>内容：避妊法、感染と予防、検査・診断・カウンセリングと記録、コミュニケーション</p> <p>会場：第 5 州保健研修センター</p> <p>期間：8 日間/回×1 回</p>
--	--

⁸ 対象全 7,267 世帯から無作為抽出した 816 世帯 (要求精度 5%、信頼率 99%) において、ベースライン調査と同じ手法で実施予定。

⁹ ある特定のテーマについて、8~10 人程度のグループで議論してもらい、情報を得るフィールドワーク手法の一つ。

¹⁰ 事前に大まかな質問事項を決めておき、回答者の答えによってさらに詳細に尋ねていく簡易な質的調査法。

¹¹ エンドライン調査内容を正確に記録する必要があることから、調査員が利用する文房具を購入する。

¹² ヘルスポストの運営管理を担う住民により構成された委員会。ネパール政府保健人口省の規定により、全ヘルスポストに設立することが義務付けられている。ヘルスポストの運営方針の協議や課題解決、年次計画策定とその実行状況モニタリングなどの業務にあたる。

¹³ 昼食のため一時的に帰宅することが困難な参加者への配慮ならびに円滑な研修進行のため、本研修では参加者に軽食を提供する。また、研修内容を視覚化と参加者の理解促進のため、講師ならびに参加者用の文房具を購入する。

¹⁴ Skilled Birth Attendant (熟練分娩介助者)。准看護助産師 (Assistant-Nurse Midwife) 資格取得者に追加受講が進められている研修で、准看護助産師資格取得研修には含まれていない分娩介助に関するより専門的な知識・技術を習得できる。

【追加】当初 2 年次に予定していたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できなかった「出産介助（SBA）研修」と「家族計画とカウンセリング研修」を、3 年次に追加した。

【変更】①3 年次に予定していた「5S 研修」は、研修名称ならびに内容を一部追加し、2 年次に「院内感染対策研修」として開催した（変更背景については 2 年次申請書を参照されたい）。②開催時期を 2 年次から 3 年次に変更していた「妊産婦及び小児の健康管理」研修については、ガダワ地区行政の予算で実施されることになったため、本事業では同研修に対する支援を行わないこととした。

1-3. ORC/CHU の建設

1～2 年次に実施した基礎調査に基づき、3 年次は ORC を 2 か所（ガダワヘルスポスト管轄 1 か所、ガンガパラスプルヘルスポスト管轄 1 か所）、CHU を 2 か所（ゴバルディヤヘルスポスト管轄）建設する。本事業スタッフ（建設エンジニア）指導のもと、2 年次に設立した建設管理委員会が、一般競争入札による建設業者の選定から施工に至る調整を行う。また、建設管理委員会は、事業終了後も「ORC/CHU 運営管理委員会」として、各施設の維持管理を継続する。

1-4. ORC/CHU への資機材供与

活動 1-3 で建設した ORC に 21 種 34 品（1 か所あたり）の資機材を、また、CHU に 35 種 59 品（1 か所あたり）の資機材を供与する。

資機材	供与先	ORC	CHU
1. 診察ベッド&カーテン		1	1
2. 脚立		1	1
3. 診察用椅子		2	3
4. 診察机		2	4
5. 待合ベンチ		3	3
6. 患者用椅子		2	3
7. スチール製戸棚		1	3
8. 血圧計		2	2
9. 聴診器		2	2
10. 体温計		2	3
11. 医療用ペンライト		1	1
12. 舌圧子		2	2
13. 体重計（大人用）		1	1
14. 体重計（小児用）		1	1
15. ドップラー		1	1
16. 医薬品棚		2	2
17. 水フィルター		1	1
18. 滅菌処置セット		2	2
19. 縫合セット		2	2
20. 滅菌テーブル		1	1
21. 消毒貯槽		2	2
22. 耳鼻咽喉検査器具		0	1

23. 滅菌機	0	1
24. 点滴スタンド	0	2
25. 薬品用冷蔵庫	0	1
26. 遠心分離機	0	1
27. 色測定器	0	1
28. 顕微鏡	0	1
29. ローテーター ¹⁵	0	1
30. マイクロピペット ¹⁶ 20-200	0	1
31. マイクロピペット 200-1000	0	1
32. マイクロピペット 10	0	1
33. 心拍測定用タイマー	0	1
34. 胎児超音波心音計	0	1
35. PPE (個人防護具) セット	0	4
合計	34	59

【変更】①1年次の申請時、ORCには1ヶ所あたり12種26品（コイラバス区ORCのみ14種28品）の資機材を供与する計画だったが、1年次に実施したベースラインサーベイ結果に基づき、21種34品に変更した。②1年次開始後の2019年3月、ネパール政府保健人口省から公布された「CHUガイドライン」において、当初予定されていなかった検査室が新たに配置されることが発表されたことを受け、当初計画資機材（1ヶ所あたり17種32品）を同ガイドラインに基づいて見直し、検査関連資機材などを追加した35種59品を供与することとした。

1-5. ORC/CHU の運営支援

活動1-3で建設したORC/CHUにて、以下の運営管理オリエンテーション¹⁷を開催する
他、本事業スタッフが定期的にモニタリングし、適宜必要な助言や技術指導を行いながら、運営を側面支援する。

対象者：ORC/CHU 運営管理委員、ヘルスポストスタッフ、CHU スタッフ、ヘルスポスト運営管理委員、FCHV の代表者各2名

講師：ガダワ地区保健担当官、本事業スタッフ

内容：施設の維持修繕、安全衛生、薬剤や供与資機材の管理

会場：各ORC/CHU

期間：2日間/ORC/CHU×8 ORC/CHU

1-6. FCHV 能力強化研修の開催¹⁸

ガダワ地区で活動しているFCHVに対し、第1～2年次に習得した内容の復習を兼ねた、以下の研修を開催する。

対象者：全FCHV（83人）

講師：ダン郡保健担当官、ヘルスポストスタッフ、本事業スタッフ

¹⁵ 検査の際、マイクロチューブや遠沈管を転倒攪拌したり、試験管やバイアル瓶を回転させたりするための医療器具。

¹⁶ 検査の際、微量の液体を測り取る際に使う医療器具。

¹⁷ 昼食のため一時的に帰宅することが困難な参加者への配慮ならびに円滑な研修進行のため、本研修では参加者に軽食を提供する。また、研修内容を視覚化と参加者の理解促進のため、講師ならびに参加者用の文房具を購入する。

¹⁸ 昼食のため一時的に帰宅することが困難な参加者への配慮ならびに円滑な研修進行のため、本研修では参加者に軽食を提供する。また、研修内容を視覚化と参加者の理解促進のため、講師ならびに参加者用の文房具を購入する。

<p>内容：妊産婦の体調管理と危険兆候、子どもが罹患しやすい疾病と予防法、栄養、家族計画、母子の健康記録、ファシリテーション</p> <p>会場：各ヘルスポスト</p> <p>期間：2日間/ヘルスポスト×4ヘルスポスト</p> <p>【追加】能力強化研修で学んだ内容を事業終了後も実践していけるよう、ボランティアキット（上腕計測メジャー、体温計など）を1人1セットずつ供与する。</p> <p><u>1-7. リプロダクティブ・ヘルスクャンプの開催¹⁹</u></p> <p>ベースライン調査で、子宮脱などの婦人科疾患で苦しむ女性が多いにも関わらず、保健医療施設での検査や治療を受けることに抵抗感を感じるとした女性が多かったこと、また若年妊娠や妊娠間隔の短い女性が多かったことに鑑み、主に出産可能年齢（15歳～49歳）の女性を対象としたヘルスクャンプ（無料診療）を1回実施する。対象地域は、特にニーズの高かったゴバルディヤヘルスポスト管轄地を予定している。</p> <p>ヘルスクャンプ実施にあたっては、シッダールタ母子専門病院より医療従事者を招聘し、約500人の女性を対象とした検査や診察を実施する他、リプロダクティブヘルス啓発ワークショップも同時に開催する。</p> <p>2. 地域住民の母子保健知識向上</p> <p><u>2-1. 母子保健啓発活動</u></p> <p>FCHVが中心となって実施する母子保健啓発活動を技術・物品両面から支援する。具体的には、母親グループ対象の保健ワークショップに事業スタッフが同席し、FCHVが伝達する保健知識・情報に間違いがないかを確認したり、母親グループメンバーにより伝わりやすいファシリテーション技術を指導したりする。また、保健啓発イベント²⁰（ORCや地元行事、世界保健デー等に併せて開催する劇やコンテストなど）をFCHVと共に企画し、本事業から必要物品（音響機器やイベントを知らせるためのバナー）を支援する。このほか、地元のマスメディア（新聞広告かラジオ番組を予定）で毎月、幅広い層に保健医療サービス情報や母子保健知識を提供する。なお、母子保健啓発活動を促進するFCHV（83人）ならびに管轄ヘルスポストスタッフ（46人）に対し、母子保健知識の拡散と両者のモチベーション向上を目的に、表面に啓発メッセージをデザインしたトートバックを供与する。</p> <p><u>2-2. 啓発ツールの作成と配布</u></p> <p>保健医療サービスの内容やFCHVによる母子保健啓発活動などを紹介するパンフレットを作成・配付する。</p> <p>内容：新設ORC/CHUの役割とスタッフ紹介など</p> <p>発行部数：3,417部</p> <p>配布先：2～3年次に建設するORC/CHU（活動1-3）の管轄地域に住む3,417世帯（1世帯1部）</p> <p>【変更】当初計画では、全4区のヘルスポスト外来患者等への配布を予定していたが、ORC/CHUの利用促進には、ORC/CHUの管轄地域の全住民に配布することが効果的と考え、配布先を変更した。</p> <p>また、事業終了後も対象地域ならびに近隣関係者が参考資料として活用できる成果集（ハ</p>

¹⁹ 問診票など正確に医療データを記録するため文房具を購入する。

²⁰ イベントの企画内容を書いたり、劇の簡単な装備品を作ったり（画用紙で冠をつくるなど）、コンテスト審査員が審査を記録したりするために必要な文房具を購入する。

	<p>ンドブック)を作成・配付する。 内容：母子保健啓発活動のグッドプラクティスなど 発行部数：2,321部 配布先：FCHV83部(1人1部)、母親グループメンバー2,228部(1人1部)、ヘルスポスト4部(1ヶ所1部)、州・郡・地区保健担当官6部(各2部)</p> <p>【追加】当初計画では、成果集は広く地域住民へも配布するため3,500部を作成する予定だったが、住民の4人に1人が文字の読み書きができないことも考慮し、成果集(ハンドブック)の作成・配付は主要な保健人材分(2,321部)のみを対象とし、同内容に準ずる「映像」を新たに製作することとした。10～15分程度に編集することを予定しており、映像データは、地区行政、地区長、住民組織等に幅広く供与する。これにより、行政や地域の行事で上映ができ、より幅広い住民層に情報を届けることができる。</p> <p>【総裨益人口】 直接裨益人口：13,712人(内、ヘルスポストスタッフ46人、FCHV83人、ガダワ地区における出産可能年齢(15～49歳)の女性9,145人、及び5歳未満児4,438人) 間接裨益人口：42,751人(ガダワ地区の住民) (内訳)：ガダワヘルスポスト管轄(2,176世帯、12,663人) ゴバルディヤヘルスポスト管轄(2,873世帯、16,938人) ガンガパラスプルヘルスポスト管轄(2,031世帯、12,187人) コイラバスヘルスポスト管轄(187世帯、963人)</p>
<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>【プロジェクト目標】ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する</p> <p>指標①：全区の第1回妊婦健診受診率が90%(1年次申請時ダン郡平均値)を超える。 指標②：全区の第4回妊婦健診受診率が51.5%(1年次申請時地区平均値)を超える 指標③：全区の妊婦鉄剤受給率が53%(1年次申請時地区平均値)を超える。 指標④：全区の予防接種(BCG)受診率が88%(1年次申請時地区平均値)を超える 指標⑤：全区の予防接種(DPT、Hep.B、Hib3)接種率が79%(1年次申請時地区平均値)を超える 指標⑥：全区の予防接種(Measles/Rubella)接種率が78%(1年次申請時地区平均値)を超える。</p> <p>※確認方法はいずれの指標もエンドライン調査ならびに公的保健医療機関データ</p>
<p>(7) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 本事業は、対象地の地方行政機関との協議に基づき、地域開発政策・保健政策に沿って計画されている。事業実施そのものが同政策を具現化する補完的な活動となることから、持続発展性が担保されている。なお、ガダワ地区行政保健部門は2020/21会計年度予算として500万NPRを既に確保しており、その中には本事業で整備する施設に係る維持管理費や、FCHVによる母子保健啓発活動費が含まれており、本事業成果の持続発展性も担保されている。 - 本事業で整備する施設ならびに供与する資機材は、当該区のヘルスポストに譲渡され、予算確保面も含め、自主的に維持管理されることが約束されている。 - ヘルスポストスタッフの約半数、ならびにFCHVは地元人材のため、事業終了後も対象地域に居住することが予想され、本事業を通じて得た知識・技術は、事業終了後も彼らの業務で活かされ、結果的に地域住民、特に母子の健康改善に寄与し続ける。 - 本事業で作成する啓発ツールが、地域住民の母子保健知識の定着と更なる行動変容を後

(様式 1)

	<p>押しすることが期待できる。なお、各啓発ツールのデータを地区行政ならびに関係機関に引き継ぎ、本事業地のみならず近隣他地区でも長く活用されるよう促すことで、本事業成果が対象地に留まらず、他の地域に波及することも期待できる。</p>
--	--